

I 2017年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2017年度大学評価結果総評】

情報科学部は理念・目的に「単にできあがった技術や理論を知識として受け身的に学ぶだけでなく、日々進歩している情報技術分野において、社会に出ても陳腐化しない確固たる技術基盤を確立した人材を育成すること」を掲げている。この理念・目的を実現するために、学問体系として変化の少ない基盤部分としては情報科学分野の国際・国内学会で策定されたカリキュラムに準拠した構成・内容を取り入れると共に、技術の進歩に応じて変化する最先端部分には各教員の研究内容を位置づけることで、プロジェクト形式の教育、卒業研究を推進している。理に叶った考え方の試みであり高く評価できると共に、継続的にその経過を観察すると同時に更に発展させるべく積極的な仕組みの改善と独自の取り組みにも期待したい。一方で、学士力の向上のための取り組み、教養教育、高大接続、国際性の涵養、及び履修指導など先端的かつ積極的な取り組みがなされている部分は高く評価できる。また学生の受け入れについて、公募推薦入試等の新しい入試制度への取り組みは、その効果や学生の追跡結果の検証を見守りたい。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

学部の現状としては、2015年度に改訂した新しいカリキュラムの完成年度を迎える年になる。そのため、学修状況や履修状況の分析を行い、カリキュラム改革の目的に沿っているかどうかや期待した学修成果を上げているかを確認した上で修正や次の改革の検討を進めていきたい。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

情報科学部は、日々進歩する情報技術分野において社会の情勢とニーズの変化へ柔軟に適応するカリキュラム改訂に留意している点が高く評価される。前回改訂から4年が経過しようとしている現時点で学部内での次期カリキュラム改訂を見据えた取り組みを開始しており、今後のカリキュラム整備の動向に期待する。一方、公募推薦入試への出願が増加傾向にあることを受けて入試経路別に学修状況を追跡調査する旨の自己点検がなされており、今後の推移を見守りたい。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【理念・目的】

日本の社会は、工業製品を効率よく大量生産する技術を追求すればよかった時代から、これまでにない新しいもの、新しいサービス、新しい価値を創造する技術を追求する時代へと、言わば「ものづくり」から「概念づくり」へと変革が進んでいる。工業製品というハードウェアから、サービスや価値といったインターネットとそこに接続されたコンピュータを動かすソフトウェアへと技術の主役が変わってきているのである。情報科学部における教育の目的は、コンピュータ科学に学問の基礎を置きつつ、こうした変革を推進する中核の一つである情報技術の専門家を養成することにある。ここで目指しているのは、単にできあがった技術や理論を知識として受け身的に学ぶだけでなく、日々進歩している情報技術分野において、社会に出ても陳腐化しない確固たる技術基盤を確立した人材を育成することである。

【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的】（教育目標）※学則別表（11）

<情報科学部>

情報科学部は、以下に示すような人材を育成する。

1. 学生の好奇心を促進する環境を提供するとともに本質を探究する態度を身につけさせることを通じ、現実世界の現象や人々の行動を分析し抽象化・モデル化する能力を有する人材を育成する。
2. 数理的アプローチを中心とする裾野の広い分野における問題解決を学生に体験させることで、抽象化した現実の問題を、情報科学の概念に基づき解決し、未来を切り拓く能力を有する人材を育成する。
3. 学生が自らの考えを論理的にまとめ、これを様々な方法で表現する態度を獲得させる。これを通じて、幅広い視野をもって自分の考えを正確にかつ広範囲に伝えるコミュニケーション能力と国際的な発信力を備えた人材を育成する。

加えて、各学科では情報科学に関わる以下の専門的能力を有する学生をそれぞれ育成する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<コンピュータ科学科>

4. ソフトウェアおよびハードウェアに関わる知識をバランス良く獲得させることを通じて、情報処理の本質であるコンピューティングとその基盤についての知識とスキルをもつ人材を育成する。

<デジタルメディア学科>

5. 情報の表現法とデジタル処理に関わる知識を広く獲得させることを通じて、視聴覚をはじめとする多様なメディア情報とその処理についての知識とスキルをもつ人材を育成する。

①学部（学科）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。 はい いいえ

②学部（学科）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。 はい いいえ

③理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

(~400字程度まで) ※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。
カリキュラムの改訂、学生指導のガイドライン変更の度に教授会で議論している。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。 はい いいえ

②どのように理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。

(~400字程度まで) ※具体的な周知・公表方法を記入。
学則別表(11)に記載し、また Web に掲載することで広く周知・公表している。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

情報科学部では、移りゆく時代のニーズを的確に捉えて、基盤的素養を備え情報技術の推移に順応できる人材を育成するという学部（学科）の教育理念・目的が設定されている。これらは大学の理念・目的と整合しており、育成すべき人物像は教育目標に明快・的確に反映されている。これらは教授会で検証され学則にも明示され、Web を介して学内外に広く周知・公表されている。

2 内部質保証

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2017年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。

・学部教員から選出された質保証委員が、自己点検の実施時期（年度初め、年度末）に、自己点検報告書をもとに確認を行っている。議論はメールベースで実施している。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

情報科学部では、学部教員から選出された質保証委員が1年に2回、自己点検報告書を確認している。また、質保証委員会でも議論した内容を教授会に報告し、点検・改善に生かしている。今後とも、確認内容を点検・改善などPDCAサイクルへ活用することが望まれる。

3 教育課程・学習成果

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

本学部では、入学後4年以上在学し、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に、学士(理学)の学位を授与する。卒業にあつては、以下の点に到達していることを目標とする。

1. 現実世界の現象や人々の行動に対しての抽象化やそのモデルを理解する能力を修得している
2. 情報科学の概念や基礎体系を修得している
3. 情報科学に関する幅広い視野を身につけ、国際的なコミュニケーションができる
4. コンピューティングかメディア情報についての知識とスキルを修得している

①学部(学科)として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件)を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

本学部の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。

■カリキュラムの構造

情報科学の急速な進歩に適応するため、学問体系として変化の少ない基盤部分と技術の進歩に応じて変化する最先端部分を分けて編成する。基盤部分は、情報科学分野の国際・国内学会で策定されたカリキュラムに準拠した構成・内容とする。最先端部分は、各教員の研究内容と位置づけることで、プロジェクト形式の教育、卒業研究の指導を行う。

■初年次教育の構成

初年次教育は、情報科学の枠組みと基本概念を把握するための専門基礎科目とともに、専門分野の理解に必要・有用な科学基礎・外国語・教養を学ぶための科目によって構成する。

■科学基礎教育の構成

科学基礎教育は、情報科学分野の学習の背景となる数学・物理の基礎的科目によって構成する。

■外国語教育の構成

外国語教育は、情報科学分野の主要言語である英語に特化し、理解力・表現力を身につけるための科目によって構成する。

■教養教育の構成

教養教育は、情報科学分野の知見を現代社会で活用してゆくために有用な知識・能力を身につけるための科目によって構成する。

■専門教育の構成

専門教育は、情報科学分野を理解するために必要となる理論等の基礎科目、情報科学の専門的知識・スキルを身につけ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>るためのプログラミング、ソフトウェア、ハードウェア、メディア処理、応用技術に関する科目、問題を洗い出し解決する力をつけるための情報科学プロジェクトと卒業研究によって構成する。</p>	
①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/johokokai/governance/rinen/hoshin/mokuhyo/gakubu.html#09 ・ http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/johokokai/governance/rinen/hoshin/gakui_juyo/gakubu.html#09 ・ http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/johokokai/governance/rinen/hoshin/kyoiku_katei/gakubu.html#09 	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。 教育目標・学位授与方針・教育課程の編成については、学部執行部の依頼によりカリキュラム委員会(常設)に原案を作成し、学部執行部の検討を経て教授会の議論を踏まえて決定したものである。実施方針については学部執行部が検討し、教授会に諮り実施しており、教授会構成員であるカリキュラム委員の視点で検証が行われている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 第319回教授会議事録 「9. 3つのポリシー」</p>	
<p>3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。 2015年度カリキュラムから、より基礎教育に重点を置いた教育課程になっている。学士力を担保するために、座学による講義に加えて演習科目を多く配置し、問題を解きながら学べる科目構成を導入した。また、数理実験を新たに導入し、実験をとおして、グループとしての問題解決方法の指導を行うと共に、ものを考え、それをレポートにまとめる能力の育成をはかっている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等 ・ 法政大学学則 情報科学部設置科目 ・ カリキュラムツリー (https://cis.hosei.ac.jp/faculty/courses/)</p>	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～600字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。 情報処理学会等の情報系の学会が提示している情報科学分野の高等教育のためのカリキュラム標準によりコアカリキュラムを設計し、情報科学分野の最新の動向に対応した改訂を数年ごとに行っている。2015年度新入生から導入した新カリキュラムでは、情報科学分野の知識体系をコースとして明確化しており、2018年度に4年次まで完成する。順次的・体系的な学修を明確にするために、コンピュータ基礎、情報システム、メディア科学の各コースのカリキュラムツリーを作成し、ガイダンスにて学生に説明している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ カリキュラムツリー https://cis.hosei.ac.jp/faculty/courses/</p>	
③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。 2015年度からの新カリキュラムでは、卒業所要単位に、外国語科目10単位、教養科目10単位の履修が必要としており、情報科学の専門分野以外の幅広い教養を身につけることを求めている。</p>	
<p>【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

教養科目の構成について見直しを行い、一部科目の改廃を行った。また、教養科目群については一定の周期で構成を見直すことについて教授会で合意を得た。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学学則 情報科学部設置科目
- ・第 340 回教授会議事録 「教育改革：人文科目群の見直しについて」

④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。 S A B

(~400 字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。

初年次教育には、数理実験においてレポートの作成の基礎的な指導を行っている。また、情報科学リテラシにおいて、理系の専門分野の学習に備えた技術英文の読解の導入講義を行っている。また、数学・物理系の基礎科目においては高校の学習との連続性に配慮して講義内容を設定している。また、情報科学の導入的な基礎科目として、情報科学入門、コンピュータシステム入門 1/2、プログラミング入門を設置している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学学則 情報科学部設置科目

⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。 S A B

(~400 字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

卒業所要単位の外国語科目 10 単位に加え、英語での学会等の発表を想定したテクニカルプレゼンテーションを開講している。また、情報科学特講では英語論文を読むことを推奨し、その論文内容の発表会を開催している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学学則 情報科学部設置科目

⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。 S A B

(~400 字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

3 年次にインターンシップを開講し、企業での夏及び春のインターンシップ参加を推奨している。資格取得に向けては、情報処理技術者試験の受験を推奨し、集中講義による教育を実践している。多くの企業で英語力の把握に使っている TOEIC を年 2 回学部で実施し、英語力の定着を目指している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学学則 情報科学部設置科目

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。 S A B

【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。

- ・入学時に数学のプレースメントテストを実施し、習熟度による科目選択を指導している。
- ・英語は入学時の TOEIC をプレースメントテストとして活用し、習熟度別クラスを編成している。
- ・学科を横断したコース制を導入し、身につける情報科学分野の知識体系をコースとして選択させている。基礎科目において学び直しの仕組みを導入するとともに、主要な科目において前提履修科目を設定している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・数学プレースメントテスト及び入学時 TOEIC の成績資料
- ・カリキュラムツリー <https://cis.hosei.ac.jp/faculty/courses/>
- ・履修ガイド

②学生の学習指導を適切に行っていますか。 S A B

(~400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

各科目において、授業時間外の学習時間が適切に確保できるよう課題を調整している。また、教員のオフィスアワーを GBC(Glass Box Office Hour Center)に集約し、学生アシスタント(SA)と共に、学習支援を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・GBC ホームページ <https://cis.hosei.ac.jp/faculty/gbc/>
- ・情報科学部時間割表

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。 S A B

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>授業改善アンケートの結果を振り返り、各科目の授業外学習の時間の到達度を把握し、授業外学習の短い科目については、次年度以降に課題量を調整するなどの措置を行っている。また、GBC にて授業外学習の支援を行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GBC ホームページ https://cis.hosei.ac.jp/faculty/gbc/ 	
④1 年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【履修登録単位数の上限設定】 ※1 年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位数の上限を記入。</p> <p>年間 49 単位数を上限としている</p> <p>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】 ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。</p> <p>成績優秀者(前年度 GPA3.0 以上)については 56 単位数まで履修上限の緩和を行っている。また、教職・資格科目やリクエスト集中講義、大学院先修科目についてはこの制限の対象外としている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 履修ガイド 	
⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報科学プロジェクトにより 1 年次秋学期から PBL 型の講義を実施している。早い段階から専門分野への興味を引き出すことで、基礎・専門科目の学習／理解の動機となることを目している。 ・ リクエストを参考に開講内容を設定する「リクエスト集中講義」科目があり、夏季休業、春期休業を中心に先端技術の知識を得る場として開講している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報科学部ホームページ https://cis.hosei.ac.jp/ 	
⑥それぞれの授業形態(講義、語学、演習・実験等)に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400 字程度まで) ※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義に関しては、学科・コース毎の必修・選択の違いや基礎科目であるか否かといった観点から受講者数を想定し、適正なクラス規模となるように必要に応じて複数のクラスを開講している。 ・ 英語については少人数クラスを展開している。 ・ 演習科目については、想定される見込み履修者から少人数クラスとなるようなクラス数を開講している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報科学部時間割表 	
⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教授会において全科目のシラバスについてシラバスチェックを行っている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 348 回教授会議事録「2018 年度シラバスチェック」 	
⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業改善アンケートにて確認している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 328 回教授会議事録「2016 年度授業改善アンケート情報開示請求」 	
3.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎科目の成績分布と後続科目での前提知識の定着度について教授会で意見交換している。2015 年度からの新カリキュラムでは、単位認定と先修条件を分離し、習熟度の低い履修科目について後続科目を履修する前に定着度を上げるために、一部の科目を学び直し科目と設定した。学び直し科目の履修状況については分析し自己点検等の際に確認している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S」：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・2017年度自己点検・評価シート	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>カリキュラムの構成上の適切性と科目の相当性について、執行部及び科目担当者で確認した上で教授会で決定している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・第232回教授会議事録「入学前既修得単位の認定について」</p>	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>厳格な評価をスムーズに行うために、科目ごとの教員裁量による成績評価を集約したコース毎の成績を集計している。基礎科目群においては単位認定と成績評価を分離し、後続科目への必要性に応じた適切な評価を実現している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・集計データは教授会で提示のみ（秘密情報のため学部内限り）</p>	
④学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法、データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・教授会にて、随時、学生の就職状況・進学状況を報告している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・第345回教授会議事録「学部長会議等報告 - 2017年度 第3回進路状況調査結果について」</p> <p>・第346回教授会議事録「就職関係」</p>	
3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・GPAの分布、単位取得状況、授業への出席状況など、学生の詳細なデータで把握して分析し、教授会で情報共有している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・単位取得状況資料、授業出席率資料など</p>	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>・情報処理技術者試験の受験を推奨し、学修成果の測定に活用している。</p> <p>・カリキュラムにおいて分野の特徴的な特性毎にコース化されており、コース毎の学修状況（成績分布や単位取得状況）見るための統計を準備しはじめている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・カリキュラム完成の途中段階についての部分的な統計データ（暫定資料のため学部内限り）</p>	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p> <p>・基礎科目群ではMastery Testsを実施している。必修科目の英語ではTOEICの受験を単に認定の前提条件とし、全学生のTOEICの成績を成果測定に利用している。学会発表での表彰件数、情報処理技術者試験の合格者数も指標としている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・TOEIC受検結果、学会発表一覧、等</p>	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入（取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等）。</p> <p>・2015年度まで学部独自のポートフォリオシステムで学習目標と成果（プログラミング、TOEIC、GPAの分布）を提供してきた。2016年度以降、このシステムの中で利用の多い部分に特化したシステムに移行して、GPA、TOEICなどの情報を提供している。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400 字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 ・年度末の進級判定にあたって、全体的な成績分布や単位取得状況の分析を行っている。 ・単位取得数が少ない学生とは、保護者を含めた面談を行い、状況の確認を行っている。 ・分析結果と面談の状況は教授会に報告し情報共有している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・成績不振者向け保護者面談会の案内	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【利用方法】 ※箇条書きで記入。 ・授業改善アンケートの結果を、データで入手し、学部教授会内で共有し、分析を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・第 328 回教授会議事録「2016 年度授業改善アンケート情報開示請求」	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (3.1～3.2)

情報科学部では、教育目標と整合する学位授与方針が明示され、また、教育課程の編成・実施方針で教育課程におけるカリキュラム構造と教育カテゴリー別の構成が明示されており、いずれも WEB や履修ガイドなどによって周知・公表されている。これらの適切性と教育目標－学位授与方針－教育課程の編成・実施方針の連関性は学部執行部－カリキュラム委員会－教授会によって階層的・重層的に検証されている。
--

②教育課程・教育内容に関すること (3.3)

情報科学部は、基盤的素養に基づいた情報技術の推移に順応できる素養を育むために、2015 年度のカリキュラム改正では基礎教育に重点を置きながら演習科目などを充実させて学習内容を深化・実質化させる教育課程が整備されたことは高く評価される。カリキュラムツリーには教育体系がわかりやすく示され、教養科目も改正が重ねられているなど、幅広い総合力を備えた人材を育成することが可能な教育課程になっていることが確認できる。数物系基礎科目、語学を含む導入科目群における高校の教育課程との連続性が的確に配慮された教育課程が運用されている。テクニカルプレゼンテーションや ERP 科目、GBC のイングリッシュ・コーナー、外部試験を導入した英語力向上への取り組みは学生の国際性を涵養するための教育として高く評価される。3 年次にインターンシップが開講され、情報処理技術者試験の受験を推奨するなどキャリア教育が適切に行われている。

③教育方法に関すること (3.4)

情報科学部では、プレースメントテストや TOEIC を活用して、学生の習熟度に応じたきめ細かな科目選択指導や習熟度別クラス編成を実施している。また、学科横断型のコース制を導入し、幅広い素養を備えた人材を育成するために必要な履修指導がなされている。GBC における管理型オフィスアワーや学生アシスタント (SA) の支援を交えた学生側に立った学習指導が運用され、他学部においても導入すべきユニークで高度な支援システムとして評価される。授業改善アンケート

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

結果に基づいて、各科目の授業外学習時間を把握し、短い科目については、次年度以降に課題量を調整するなどの措置を行っており、GBCの機能を巧みに組み合わせて学生の学習時間確保のための方策がなされている。成績に応じて履修登録単位数の上限が設定され、1年次秋の早い段階から「情報科学プロジェクト」によるPBL型授業、リクエストを参考に講義内容を設定する「リクエスト集中講義」などユニークで効果が期待できる授業形態に取り組んでいることは高く評価される。また、一定の教育効果を確保するために授業形態毎の履修クラス規模は適正に管理されている。シラバスは教授会で定期的にチェックされている。一方、授業がシラバスに沿って行われているかの検証については、授業改善アンケートによって学生側からの情報に基づく検証が行われている。

① 学習成果・教育改善に関すること (3.5~3.7)

情報科学部では、習熟度が低い学生には、成績評価と単位認定を必ずしも連動させずに、学び直し科目を設定するシステムを導入していることは評価できる。この取り組みは単位認定の実効性に留意した大変優れた成績管理方法であり高く評価できる。他大学等における既修得単位の認定基準は、執行部と科目担当で確認され、最終的には学部教授会で決定され運用の適正化が図られている。学生の就職・進学状況、成績分布・進級状況のいずれもが学部教授会で把握されている。情報処理技術者試験の受験を推奨し、コース別の学習成果分析を開始するなど分野特性に即した学習成果測定の取り組みが工夫されている。学習成果は情報処理技術者試験の合格者数、基礎科目群のMastery TestsやTOEICの成績、学会発表での表彰件数など複数の指標によって定量評価され、これらをポートフォリオによって見える化している点は評価される。定期的な学習成果の分析に基づいて不調な学生への対応・指導がなされ教授会に報告されている。学生による授業改善アンケート結果はデータを学部教授会で共有し、分析が行われている。

4 学生の受け入れ

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

本学部が教育理念とする人材を育成するために重視する学生の能力および資質は、①基礎学力、②論理的思考力、③コミュニケーション力、④意欲、主体性、行動力、⑤志望や適性である。高等学校で学んだ基礎学力を身に付け、単なる暗記ではなく、知識を駆使して解を導く論理的思考力を備え、自らの考えを矛盾なく表現し、互いに議論することで切磋琢磨していきたいと望む学生を求める。このため、これらの能力を備えた学生を多様な選抜制度により受け入れる。

- ・一般入試(A方式入試、T日程入試、英語外部試験利用入試および大学入試センター試験入試利用入試等)

学力を重視した受入を行う。「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」に関して、数学、物理、英語の試験により、基礎学力の定着度をはかり、論理的思考力とコミュニケーション力の基盤を備えているか確認する。

- ・推薦入試(指定校推薦入試、付属校推薦入試、スポーツに優れた者の特別推薦入試等)

自主性・人間性を重視した受入を行う。「知識・技能」に関して、調査書により、高等学校で学んだ学習の達成度を確認する。また、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・態度」に関して、志望書により、志望動機や適性をみるとともに論理的な文章作成能力を確認する。さらに、「意欲・態度」に関して、面接試験にてコミュニケーション力、意欲および適正を確認する。

- ・特別入試(公募推薦入試、外国人留学生入試等)

学力、及び、自主性・人間性を重視した受入を行う。「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」に関して、筆記試験または外部試験にて、基礎学力と論理的思考力を測る。さらに、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・態度」に関して、面接試験にてコミュニケーション力、意欲および志望や適性を確認する。

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

4.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

(~200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

過去の入学状況の分析結果に基づき、入試査定を行い、適切な入学定員となるよう管理している。2017年度までの5年間の平均充足率が1.02であり、適正な充足を継続的に維持している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・下記の定員充足率参照

定員充足率（2013～2017年度） （各年度5月1日現在）

種別\年度	2013	2014	2015	2016	2017	5年平均
入学定員	156名	156名	156名	156名	156名	
入学者数	173名	148名	156名	155名	162名	
入学定員充足率	1.11	0.95	1.00	0.99	1.04	1.02
収容定員	606名	612名	618名	624名	624名	
在籍学生数	677名	660名	656名	632名	628名	
収容定員充足率	1.12	1.08	1.06	1.01	1.01	1.06

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
- ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】※医学・歯学分野は省略

提言	努力課題	改善勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20以上	1.25以上
上記以外の分野	1.25以上	1.30以上

【定員未充足の場合】

提言	努力課題	改善勧告
すべての分野共通	0.9未満	0.8未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018～
入学定員超過率	1.20以上	1.17以上	1.14以上	1.10以上
収容定員超過率	1.40以上	1.40以上	1.40以上	1.40以上

4.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

- ・入学経路ごとに入学後の成績の追跡調査を行ない、その結果に基づき、指定校の入れ替えや条件変更を適切に行っている。
- ・公募推薦の出願者が増加しており、同時期に実施している指定校入試による入学者との成績の追跡調査を行っている。
- ・入試の結果を元に設問毎の効果分析し、次年度の問題作成に活用している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・第338回教授会議事録「付属校推薦基準」
- ・第349回教授会議事録「公募推薦の専願・併願の明示について」

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

情報科学部では、修得しておくべき知識等の内容を明示した学生の受け入れ方針が設定されている。過去5年間の平均充足率は1.02であり入学定員管理は適切である。入試結果のみならず学業成績を入試経路別に追跡調査して学生の受け入れ方法を継続的に見直す試み、ならびに入試問題の点検・改善への取り組みは評価される。

5 教員・教員組織

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【求める教員像および教員組織の編制方針】(2011年度自己点検・評価報告書より)

大学の建学の精神「自由と進歩」に対する自覚に基づき、情報科学部の教育の理念・目的を正確に認識した上で教育に当たることが要請される。とりわけ、情報技術の専門家に必要となるコンピュータ科学についての知識を確実に養いつつ、進展の著しい情報技術分野において陳腐化しない技術基盤を修得するために、どのようなカリキュラム編成が適切であるか、また、どのような教育内容が適切であるかといった点を常に意識しながら教育を行なうことが求められる。

教員組織の編制においては、学部の教育理念・目的に基づき、多様かつ変化の速い情報科学分野への追従にも配慮しながら、学生に対して責任ある教育を行なうことのできる専任教員を中心に教員組織を構成する。専任教員の採用に当たっては、人事選考委員会および人事委員会により公正かつ適切な方法で行なうことができる体制を整備する。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

- ・情報専門科目教員資格についてのガイドライン
- ・英語教員資格についてのガイドライン
- ・自然科学教員資格についてのガイドライン

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】 ※簡条書きで記入。

- ・学部執行部：学部長、教授会主任、教授会副主任：学部活動の計画と執行
- ・主任教授会：学部執行部、CS/DM 学科主任：学部活動の意見集約と調整、基本方針の策定
- ・教授会：学部の意志決定
- ・人事委員会：教員採用候補者の資格検査
- ・人事選考委員会：教授会の付託を受け、教員採用候補者を選考
- ・カリキュラム委員会：学部教育の基本カリキュラム案の策定

【明示方法】 ※簡条書きで記入。

- ・根拠資料の各規程や内規による

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・学部執行部：情報科学部教授会規程
- ・教授会：情報科学部教授会規程
- ・人事委員会：内規「情報科学部人事委員会細則」
- ・人事選考委員会：内規「情報科学部人事選考委員会細則」

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

教員の採用にあたっては情報専門科目教員資格についてのガイドラインに従い、適切な資質を持った専門科目教員を採用している。また、教員募集前に、教授会懇談会を開き、募集領域の研究・教育分野の適切性を議論している。この結果、カリキュラムと整合性が高く、バランスの保たれた教員組織となっている。外部に向け「理系学部研究室ガイド」に、研究領域と教員のマトリクスを示して公開している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・情報専門科目教員資格についてのガイドライン
- ・理系学部研究室ガイド

②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

学部と大学院の教授会は、構成員が90%重なり、原則同日に開催している。連携が必要な議題は、両方で効率的に議論が行われ実施に移される。また、研究科主任教授会を、学部執行部、CS/DM 学科主任、研究科長で構成し、原則月2回開催しており、教学面の連携を前提とした運営をしている。主任会議の場で、学部と大学院の教授会における共通課題の審議事項を事前に確認して、重複議論にならないよう、教授会進行手順を定めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018 年度教授会開催日程

2017 年度専任教員数一覧

(2017 年 5 月 1 日現在)

学部 (学科)	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
情報科学	24	0	0	0	24	16	8

専任教員 1 人あたりの学生数 (2017 年 5 月 1 日現在) : 26.2 人

③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】(～200 字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

教員採用にあたり、現在の学部教員の年齢構成を考慮し、できるだけ同年齢が重ならなく、かつ、若い教員を採用することを配慮している。結果として、年齢構成が高年齢化しない教員構成を維持している。

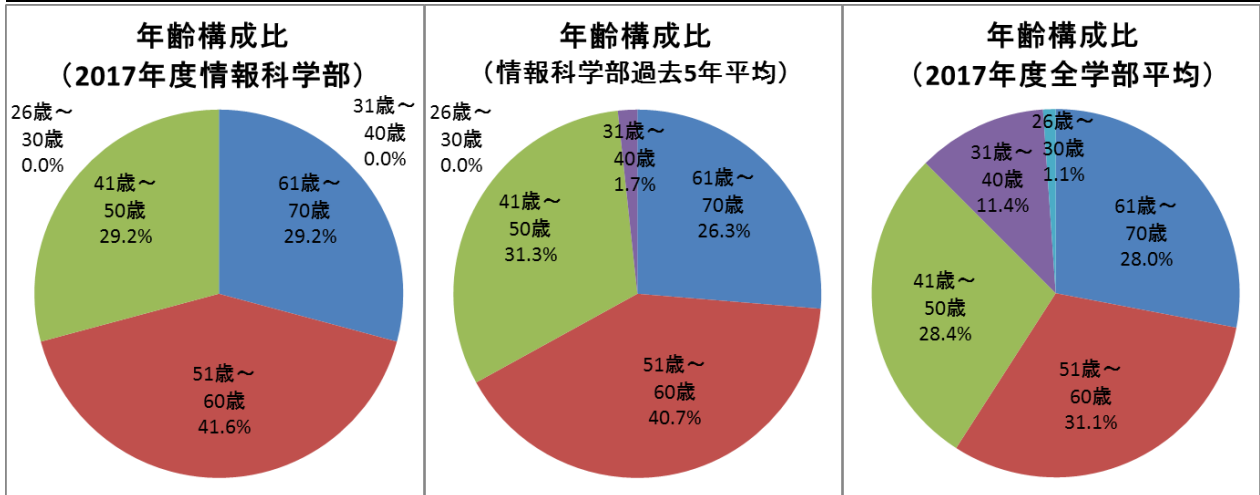
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・下記の年齢構成一覧参照

年齢構成一覧

(2017 年 5 月 1 日現在)

年度\年齢	26～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳
2017	0 人 0.0%	0 人 0.0%	7 人 29.2%	10 人 41.6%	7 人 29.2%



5.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・情報専門科目教員資格についてのガイドライン
- ・英語教員資格についてのガイドライン (2016 年度に、改訂中)
- ・自然科学教員資格についてのガイドライン
- ・情報科学部教授および准教授等資格内規

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・情報科学部人事委員会細則 ・情報科学部人事選考委員会細則 ・情報科学部教員資格審査内規 	
②規程の運用は適切に行われていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【募集・任免・昇格のプロセス】 ※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等（非公開）を添付することでも可。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集については、上記根拠資料の通り、人事選考委員会と人事委員会を独立に組織して、選考と資格審査（法令および人事規程に合致するか判定）を進めている。 ・昇格については、上記根拠資料の通り、教授資格のための条件を明記し、運用している。 	
5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【FD活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院講義である「オープンセミナー」は、教員の研究テーマについて交流する場として、全教員のプレゼンテーションが2年間で一巡する形式で実施している。 ・全ての講義に対して、自由に授業参観を行うことができる。特に、複数教員が担当する同一講義の他クラスや講義の積み上げ方向の関連科目を中心に、講義方法や内容の共有を図っている。 <p>【2017年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンセミナー（春学期の隔週金曜3限、教員の研究活動の発表、原則的に教員全員参加） ・プログラミング（MATLAB）で後段のプログラミング演習（MATLAB）との関連で授業参観 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報科学オープンセミナー https://cis.hosei.ac.jp/gs/courses/special/ ・授業相互参観実施状況報告書 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

<p>情報科学部では、教員人事における資格要件や教員に求められる能力・資質は、教育プログラムの目標と使命を勘案して設定され教育内容別にガイドラインが明示されるとともに、教員が担うべき役割と責任も各種規程・内規に遺漏なく明記されている。カリキュラムの運用上、最適な教員組織が構成されており、教員の研究領域とともにカリキュラム上の役割が明示されている。学部と研究科の教授会が同日開催されることによって学部・大学院教育の一体化が担保され、効率的な議事運営が図られている。若い教員の新規採用に留意することにより高年齢化しない年齢構成を維持しているが、情報技術分野としての特徴か、31～40歳の教員比率は著しく低い。教員人事に関わる規程・ガイドラインが遺漏なく整備され適切に運用されている。教員の研究活動を発表するオープンセミナーは原則、全教員が参加して実施され、各授業の相互参観も実施されるなど、学部内のFD活動が適切に機能している。</p>

6 学生支援

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	
①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に、全学生の卒業・卒業保留・留年者を学年別や入学年度別に把握している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・第 348 回教授会議事録「2017 年度進級、卒業判定及び卒業再試験該当者について」 	
②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400 字程度まで）※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。 <ul style="list-style-type: none"> ・新入生に対しては初年度のクラス担任を割り当て、新入時面談で状況を把握しやすい体制を取り、新入生にとっては修学についての相談をしやすい環境を作っている。 ・オフィスアワーは GBC において対応することを必須とし、随時修学相談を受けることができるようにしている。担当時間は時間割に掲載し周知している。 ・入学時プレースメントテストの成績を元に、習熟度別クラス編成と英語の補習授業を実施している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・履修ガイド ・情報科学部時間割表 	
③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【成績不振学生への対応体制および対応内容】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・春・秋の学期末に、卒業までの間に留年の可能性のある修得単位数の少ない学生や留年生を調査して、成績開示後に保護者相談会を実施している。 	
【2017 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・2016 年度までは希望者のみであったが、一定の基準を満たさない学生については全員に対して面談もしくは直接の連絡による状況把握を行うようにした。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・第 336 回教授会議事録「春学期成績不振者個別相談会」 ・第 337 回教授会議事録「成績不振者相談会対象者基準」 ・第 338 回教授会議事録「成績不振者相談会対象者基準」 ・第 340 回教授会議事録「2017 年度春学期末 成績不振学生の対応について」 ・第 348 回教授会議事録「2017 年度秋学期成績不振者相談会」 	
④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400 字程度まで）※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。 入学時面談の際に、履修指導などの修学支援が必要か否かを確認している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・第 327 回教授会議事録「2017 年度新入生対応」 	
⑤学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400 字程度まで）※学生の生活相談に関する取り組み概要を記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・相談があれば、学科主任や学部執行部の複数名の体制で対応し、GBC 相談員や事務の協力を得ながら対応を行っている。 ・成績不振者相談会に GBC 相談員が待機し、必要に応じて学部としての支援に繋ぐ体制を取っている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・相談記録は残しているが、個人情報のため非開示 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

情報科学部における卒業保留・留年、休退学などの情報は、学年別・入学年度別に把握され的確に管理されている。クラス担任や GBC により学生への修学支援が個別に手厚く施されていることは高く評価される。新入生の修学支援にはブレースメントテストが活用され補習が設定されるなど修学支援は非常に良好である。成績不振学生に対する保護者懇談会の実施に加えて、一定の基準を満たさない学生全員に対して修学指導を徹底するように改善したことは評価される。外国人留学生への修学支援については、入学時に支援が必要かどうか確認している。学生相談に関しては学科主任、学部執行部、GBC などにより重層的に対応している点が評価される。

7 教育研究等環境

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
--	---

(～400字程度まで) ※教育支援体制の概要を記入。

- ・基礎科目や演習科目を中心に TA による教育支援体制を取っている。また、GBC において、SA による学修支援も行っている。
- ・春学期のはじめに TA・SA 向けのガイダンスを実施している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・第 348 回教授会議事録「2018 年度 TA、学生アシスタント B 枠割り当て」

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

情報科学部では、TA による教育研究支援はもちろんのこと、GBC に配置される SA が貢献を果たしていることは評価される。

8 社会連携・社会貢献

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
--	---

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

企業や研究所等との共同研究を 2 件実施した。現在、情報技術が様々な面で注目されていることを考慮し、今後、最新の技術情報や知見を社会に提供していくことについて検討を進める。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

情報科学部では、官民との共同研究、研究情報発信を通して大学から社会へ貢献している点は評価される。今後は、最新の技術情報や知見を地域社会に提供するなどの社会貢献に期待したい。

9 大学運営・財務

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

①学部長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※概要を記入。

教授会規程を設け、教授会主任、同副主任の権限や責任を明文化している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・情報科学部教授会規程

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

情報科学部では、教授会規程により所要の役職、権限や責任を明文化され、水準を十分に満たした運営システムが構築されている。

III 2018年度中期・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	在学期間にわたる学修が適切に進行するように、学修状況の把握をすすめ、より適切な教育内容の提供及び学修指導体制の構築を目指す。
	年度目標	出席と単位取得を中心に、学修指導に適切な学修状況の見直しを行う。
	達成指標	適切な基準を策定して、教授会で合意を得る。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	座学・実習・演習が中心とな情報科学分野のディシプリン型教育において、アクティブラーニング等の新たな教育方法の有効性についての検討を進める。
	年度目標	反転学習の仕組みを導入した講義実施形態の検討を進める。
	達成指標	他大や他学部の実施状況を調査し、適用可能な形態の検討結果の情報を教授会メンバーで共有する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	多様な入試経路やコース化した教育課程において、情報科学や情報技術についての学修達成度の把握により適切な指標を検討し、学修支援への活用を進める。
	年度目標	科目群やコース科目などのカリキュラム上の区分に基づいた学修状況の分析を行う。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	達成指標	学修状況の分析結果の情報を教授会メンバーで共有する。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	社会における大学での情報科学教育の位置づけの動向を注視しつつ入学経路の多様化を進める。入試経路拡大の際には、入学経路毎の適切な定員バランスに配慮する。
	年度目標	入試経路毎の成績分析の追跡調査を行う。
	達成指標	入試経路毎の分析結果の情報を教授会メンバーで共有する。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	学部の理念・目的に基づいた教員組織の編成を行う。同時に、教育研究体制を強化するための、FDや教員間の協働を進める。
	年度目標	学部教育の将来像の検討を進めながら、適切な教員の採用を行う。また、教育の最終段の強化に繋がる外部資金の獲得を目指し、複数教員の連携による申請を行う。
	達成指標	複数教員連携での外部資金申請を一件以上行う。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	大学における学修に困難を抱えている学生について、組織的な支援の体制を構築する。
	年度目標	教員・職員・GBCの連携による、学修困難学生への情報把握・共有体制を確立する。
	達成指標	教員・職員・GBCの連携による支援体制を策定して、教授会で合意を得る。
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	情報科学分野における基礎技術や最新技術の情報を社会に向けてわかりやすく提供していく。
	年度目標	本学部の教員の専門分野における情報技術に関する解説や説明を広く公開する。
	達成指標	情報技術に関する解説をWeb等を通じて公開する。
<p>【重点目標】</p> <p>学生支援において、学修に困難をかかえる学生の支援体制の確立を最も重視している。</p> <p>GBC長（本学部専任教員）とGBC相談員（臨床心理士資格保有者）により素案を作成し、それを学部執行部及び事務主任との意見交換を通じて、実施可能かつ有効性が高いと思われる対応手順を策定する。</p>		

【2018年度中期・年度目標の大学評価】

情報科学部の中期目標の中には、法政大学情報科学部として機能するために備えておくべき内容が含まれている。また年度目標や達成指標も、やや具体性に欠けるようである。例えば、学生の受け入れの項で中期目標が「社会における大学での情報科学教育の位置づけの動向を注視しつつ入学経路の多様化を進める」としながら、達成指標が「入試経路毎の分析結果の情報を教授会メンバーで共有する」とあり、目標が入試経路の多様化を進めるのであれば、現行の経路情報の分析結果の共有だけからでは目標が達成されるとは考えにくい。また教員・教員組織の項の年度目標に「学部教育の将来像の検討を進めながら、適切な教員の採用を行う」とあるが達成指標にはそれに該当する記述がない。このように、中期・年度目標は自己点検評価シートに比べ、目標や達成指標の設定は適切性や具体性に欠けるので、年度末報告でのより具体的な記述を期待したい。

【大学評価総評】

情報科学部は、技術的素養を担保する基盤教育と社会の変容に順応できる先端教育を組み合わせた教育プログラムを運用し当該分野での大学としての使命を果たすための教員スタッフを構成している。日々進化する情報科学の人材資源を育成する仕組みが巧みに多角的に組み込まれている。履修コース間を横断する履修、プレゼンテーションやPBLを重視した授業科目によるアクティブラーニングの促進、ERP科目・GBCのイングリッシュコーナー・TOEICなどを導入したグローバル素養の育成、学び直し科目、前提科目など、カリキュラムには多彩で創意工夫に満ちた取り組みが見られ、高い教育効果を発現することが期待される。学生への修学支援は多角的・重層的であり、GBCの管理型オフィスアワーやアシスタント学生（SA）と教員との連携による学生への支援体制は他部局には見られない独創性を有し、その取り組みが高く評価される。教育・学習成果の計測は適切かつ確実であり、ポートフォリオを利用した学習成果の見える化などは、欧米の大学システムに学ぶ教学管理手法として今後の主流になり得る取り組みである。教育プログラムを支える教員組織の人事管理は適切になされ、各分野を堅実に支える組織構造となっている。先端科学分野特有の事情ではあるが、育成しようとする人材像は社会情勢とともに変動するため、それに追従できる学生受け入れ体制を柔軟かつ細やかに見直す体制が確立されている。

一方で、知識体系が短時間スケールで変動する科学分野の宿命として中期目標の設定が困難とは思われるが、分野の特

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

質を反映した中期目標と年次進行計画を適切に策定することが望まれる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。